

■ 標準施工法のポイント

① 下地組み

- 耐火野地板支持材(たるき)は軽量形鋼C-100×50×2.3mm以上を使用し、接合部は2本組みにして、606mm以内の間隔に組んでください。
- 母屋は荷重(固定、風圧、積雪)と支持スパンによって設定し、1時間耐火被覆を行ってください。
ただし、床面から梁下までの高さが4m以上の場合は、耐火被覆を行う必要がありません(国土交通省告示第1399号)。
- 耐火野地板の施工前には、鉄骨下地の原寸チェックを行ってください。留め付け不良、板割れを防止しロス率の軽減になります。

② 耐火野地板の施工(切断、留め付け)

- 耐火野地板の接合部は軽く突き付ける程度としてください。
- 耐火野地板の切断は外装用カッター(ダイヤモンドチップソー)または、スレート用鋸を用いてください。
- 耐火野地板の留め付けは、リーマ付きドリルねじ(径:φ4mm以上、長さ:野地板厚さ+20mm程度)を使用してください。
留め付け間隔は300mm以内、端空き距離は25~35mm程度内側にしてください。

推奨ねじ	<ul style="list-style-type: none"> ・ニチハステンレスリーマテクスネジ (JK1240…φ4mm×50mm JK1250…φ5mm×60mm) ・日本パワーファスニング株式会社「ボードテックフレキ」 お問い合わせ先(052-733-1551)
------	--

※タッピンねじで施工する際には、必ず先孔を空け、野地板厚さ+15mm以上の長さの製品を使用してください。

禁止 エアーガンなどによる釘での留め付けは、長期での振動や熱の影響で保持力が低下する恐れがありますので行わないでください。

③ 屋根葺材

- 耐火野地板の施工後はすみやかにアスファルトルーフィングを施工してください。
耐火野地板が雨に濡れた場合は、充分乾燥させた後にアスファルトルーフィングを施工してください。雨に濡れたままの施工はしみ、汚れ、波打ち、強度低下の原因になります。
- 屋根葺材は国土交通大臣認定の不燃材料を屋根工事共通仕様書(JASS-12)に準じて施工してください。
※耐火野地板への釘による施工は、保持力が不確実になるので使用しないでください。
- 詳細部の納まりは屋根材メーカーまたは設計仕様に準じてください。

④ 塗装

- 耐火野地板が直接天井面となる場合は、カラー塗装品(CPN1842・CPN1851)を使用するか、耐アルカリ性に優れたアクリル系またはウレタン系の塗料でシーラー塗布(下塗り)から行ってください。(お問い合わせ先:P.24参照)

⑤ 留意事項

1. 使用環境に関する制限

- ・常時水に接する使用は避けてください。

2. 保管・運搬時に関する注意

- ・保管の方法は直射日光や水分を避けるよう平坦な屋内とし、現場で保管する場合は飼い木(4本)、パレットなどの上に平積みし(高さ1m以内)、雨に濡れないようシートなどをかけてください。
※ふくごうくんは、濡れますとシミが発生するおそれがありますので、必ずシート掛けを行ってください。
- ・鋭角な器物との衝突や角当ては、損傷の原因になりますので避けてください。

3. 施工時・作業時の注意 安全確保に留意し、踏み抜き防止や墜落防止などの措置をとってください。

- ・局部荷重や衝撃により割れることがありますので、施工時には下地のない箇所には乗らず、たるきの上を歩いてください。
踏み抜き防止、墜落防止のため、足場板を使用するか安全ネットを張ってから作業を行ってください。
- ・重量物(屋根葺材など)は大梁のある部分へ敷板を置き、分散させて置いてください。
- ・強風下での施工は風にあおられやすいので行わないでください。

4. 粉塵注意

- ・切断時には粉塵が発生しますので、切断器具には粉塵吸引装置を設け、また作業者は正規の作業服を着用の上、防塵マスク、防護メガネなどの使用をお願いします。
- ・狭い場所での多量の切断作業を行う場合は、十分な外気の導入を行い粉塵量を低下させてください。

だんねつくん フェノールフォームの留意事項

- ・フェノールフォーム面に水蒸気が多量に発生するような環境などでの使用は避けてください。
- ・フェノールフォームは、常時高温(100℃以上)で使用した場合は、熱伝導率などの物性の低下をきたします。
- ・フェノールフォームの粉塵には健康上の有害性は認められていませんが、目に入った場合はこすらないで流水で洗浄してください。また、吸引した場合は、うがいなどを行い粉塵を洗い出してください。
- ・フェノールフォームは炎をあてると炭化する性質があります。輸送・保管・施工にあたっては、火気にご注意ください。特にフェノールフォームの切断などで生じた粉塵には火が移りやすくなりますので、ご注意ください(基材の酸素指数:28以上)
- ・各製品は紫外線により変色する恐れがありますので、室内側の使用であってもフォーム部分および不織布面が露出する使用は避けてください。保管中や施工中も含め、養生するなど配慮してください。なお、変色による著しい性能低下は認められていません。

⑤ 留意事項は、通常の取り扱いを対象にしたものです。特殊な取り扱いをされる場合は用途・用法に適した安全対策を実施の上ご利用ください。また記載内容は現時点の資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。

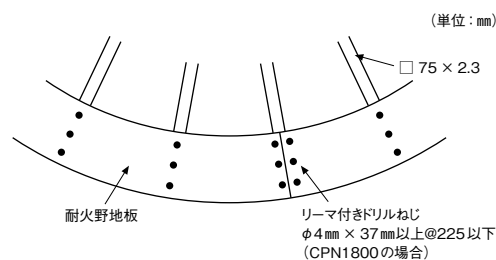
■ 球面施工法

◆ 鉄骨下地

- たるきの最大ピッチは606 mmとしてください。どの位置でも野地板のジョイントができるように、たるきの幅は少なくとも75 mm以上必要です。

◆ 耐火野地板の施工

- 耐火野地板の施工はあらかじめ450×1,820 mmのサイズにカットしてください。
- 耐火野地板の施工はよこばりとし、現場採寸にて短手端部を台形にカットした後、φ4 mmのリマ付きドリルねじを使用してたるきに留め付けてください。ねじピッチは@225 mm以下としてください。(その場合、耐火野地板のロス率は約30%程度見込んでおく必要があります。)



■ 耐火野地板無塗装品の塗装

- 30分耐火構造が必要な場合は、対象の認定番号別添をご確認ください。
- 耐火野地板無塗装品の塗装については、下記の塗料メーカーへお問い合わせください。

推奨塗料メーカー

- ・大日本塗料株式会社 塗料相談室 お問い合わせ先 (0120-98-1716)
- ・日本ペイント株式会社 営業センター お問い合わせ先 (03-5479-3614)

耐火構造認定番号による区分一覧表

屋根に 要求される 構造など	部位	認定番号	取得した構造方法または 建築材料の名称	屋根下地材		もやピッチ	屋根葺材			
				製品名	T型 ジョイナー		粘土瓦 ※1 プレス セメント瓦	化粧 スレート	金属板	金属板 (有機系) 断熱材付
30分耐火構造	屋根	FP030RF-1834-2(1)	住宅屋根用化粧スレート・ 硬質木片セメント板表張/ 軽量鉄骨下地屋根	センチュリー 耐火野地板	不要	2,000mm 以下	×	○	×	×
		FP030RF-1763-2(1)	葺材[ステンレス鋼板製、銅板製、 銅合金板製又はチタン板製]・ 硬質木片セメント板表張/ 軽量鉄骨下地屋根				×	×	○ ^{※3}	×
		FP030RF-1763-2(2)	裏打材[合成樹脂系又は無機質系]裏張・ 葺材[ステンレス鋼板製、銅板製、 銅合金板製又はチタン板製]・ 硬質木片セメント板表張/ 軽量鉄骨下地屋根				×	×	×	○ ^{※3}
		FP030RF-1997(1)	葺材[アルミニウム合金板製、 めっき鋼板製、ステンレス鋼板製、 銅合金板製又はチタン板製]・ 硬質木片セメント板表張/ 軽量鉄骨下地屋根				×	×	○ ^{※5}	○ ^{※5}
		FP030RF-0099-2	葺材[かわら製、スレート製、 めっき鋼板製、ステンレス鋼板製、 アルミニウム合金板製、銅板製又は チタン板製]・硬質木片セメント板・ フェノールフォーム板/軽量鉄骨造屋根	だんねつくん	不要	2,000mm 以下	○	○	○ ^{※3}	○ ^{※3,※4}
		FP030RF-1779-1(2)	裏打材[無機質系又は合成樹脂系]裏張・ 葺材[ステンレス鋼板製、めっき鋼板製、 銅合金板製又はチタン板製]・ 硬質木片セメント板・ フェノールフォーム板表張/ 軽量鉄骨下地屋根	だんねつくん (フェノールフォーム 厚み12mm)	不要	2,000mm 以下	×	×	×	○ ^{※3}
		FP030RF-1751-1(2)	裏打材[無機質系又は合成樹脂系]裏張・ 葺材[ステンレス鋼板製、めっき鋼板製、 銅合金板製又はチタン板製]・ 硬質木片セメント板・ フェノールフォーム保温板表張/ 軽量鉄骨下地屋根	だんねつくん (フェノールフォーム 厚み25mm)			×	×	○ ^{※3}	○ ^{※3}
		FP030RF-1984	葺材[めっき鋼板製、ステンレス鋼板製、 銅板製又はチタン板製]・ 硬質木片セメント板・ フェノールフォーム保温板/ 軽量鉄骨下地屋根	だんねつくん (フェノールフォーム 厚み25mm)			×	×	○ ^{※3}	○ ^{※3}

※1 和瓦、S瓦

※2 平葺、たて平葺、瓦棒葺、段葺、横葺、金属瓦葺、平滑葺

※3 平葺、たて平葺、瓦棒葺、段葺、横葺、金属瓦葺、平滑葺、折板葺

※4 対象はだんねつくんのフェノールフォーム厚み25mm以上

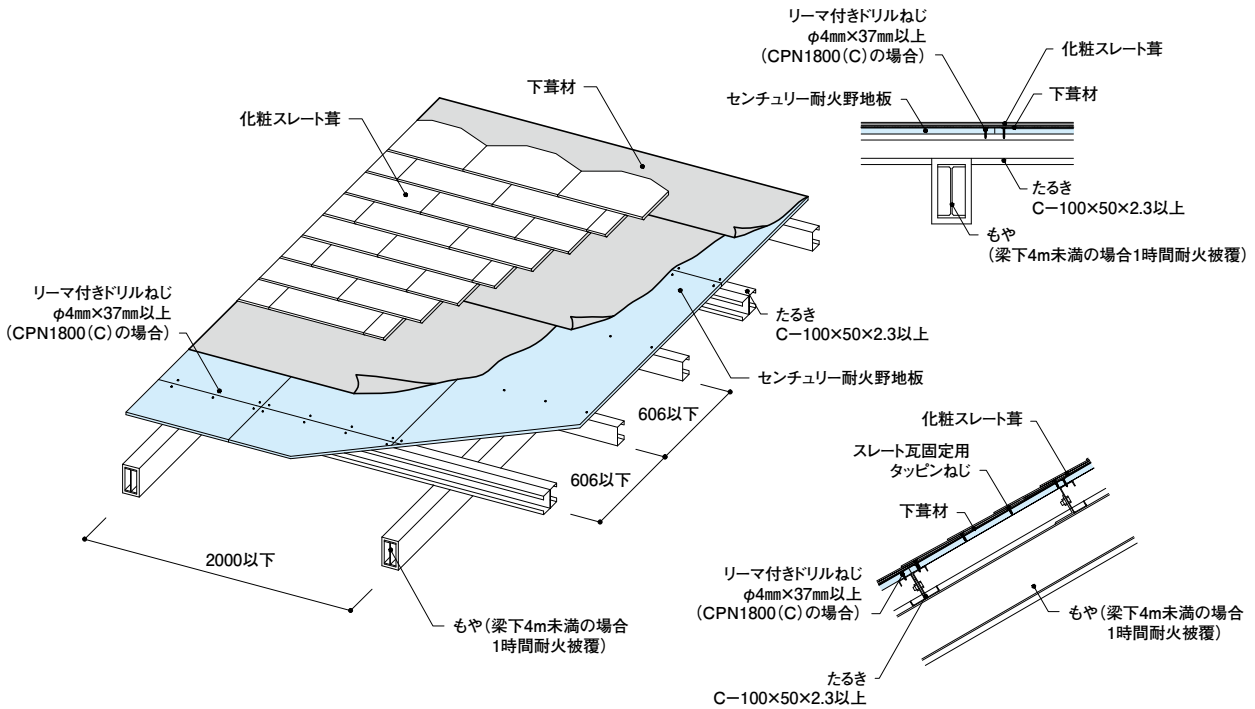
※5 横葺、縦葺、瓦棒葺、たて平葺、平滑葺、金属瓦葺、折板葺

屋根に 要求される 構造など	部位	認定番号	取得した構造方法または 建築材料の名称	屋根下地材		T型 ジョイナー	もやピッチ	屋根葺材			
				製品名				粘土瓦 ^{※1} プレス セメント瓦	化粧 スレート	金属板	金属板 (有機系) (断熱材付)
30分耐火構造	屋根	FP030RF-1058	ステンレス鋼板・硬質木片セメント板・ ロックウール吸音板表張/ 軽量鉄骨下地屋根	ふくごうくん	不要	2,000mm 以下					
		FP030RF-1660	めっき鋼板・硬質木片セメント板・ ロックウール吸音板表張/ 軽量鉄骨下地屋根								
		FP030RF-1661	伸銅品・硬質木片セメント板・ ロックウール吸音板表張/ 軽量鉄骨下地屋根				×	×	○ ^{※2}	×	
		FP030RF-1662	チタン展伸材・硬質木片セメント板・ ロックウール吸音板表張/ 軽量鉄骨下地屋根								
		FP030RF-1666	合成樹脂系断熱材裏張/ めっき鋼板・硬質木片セメント板・ ロックウール吸音板表張/ 軽量鉄骨下地屋根								
		FP030RF-1667	合成樹脂系断熱材裏張/ ステンレス鋼板・硬質木片セメント板・ ロックウール吸音板表張/ 軽量鉄骨下地屋根								
		FP030RF-1668	合成樹脂系断熱材裏張/ 伸銅品・硬質木片セメント板・ ロックウール吸音板表張/ 軽量鉄骨下地屋根				×	×	×	○ ^{※2}	
		FP030RF-1669	合成樹脂系断熱材裏張/ チタン展伸材・硬質木片セメント板・ ロックウール吸音板表張/ 軽量鉄骨下地屋根								
		FP030RF-1670	アルミニウム板・硬質木片セメント板・ ロックウール吸音板表張/ 軽量鉄骨下地屋根				×	×	○ ^{※2}	×	
		FP030RF-1672	合成樹脂系断熱材裏張/ アルミニウム板・硬質木片セメント板・ ロックウール吸音板表張/ 軽量鉄骨下地屋根				×	×	×	○ ^{※2}	
		FP030RF-1997(2)	葺材[アルミニウム合金板製、 めっき鋼板製、ステンレス鋼板製、 銅合金板製又はチタン板製]・ 硬質木片セメント板・吸音板表張/ 軽量鉄骨下地屋根				構造安全 性が確か められた 寸法	×	×	○ ^{※5}	○ ^{※5}

標準施工図 (センチュリー耐火野地板・まげのじくん)

センチュリー耐火野地板・まげのじくん FP030RF-1834-2(1)仕様

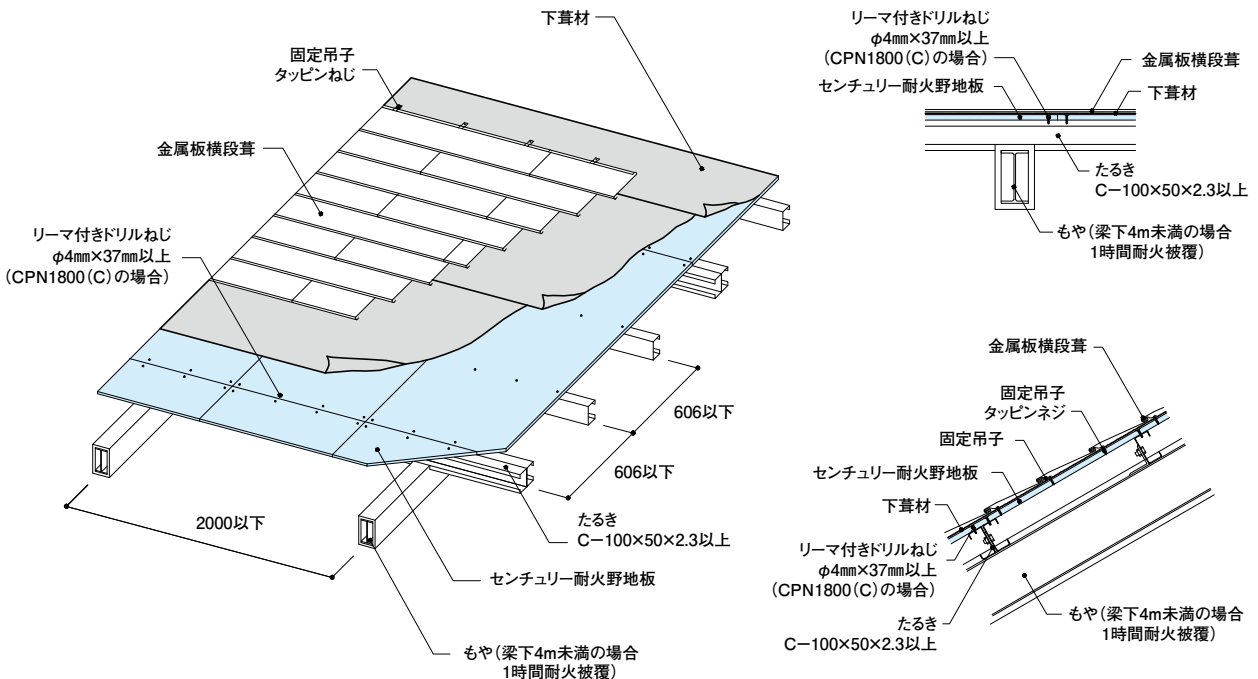
■化粧スレート葺施工法



センチュリー耐火野地板・まげのじくん FP030RF-1763-2(1)～(2)仕様

■金属板横段葺施工法

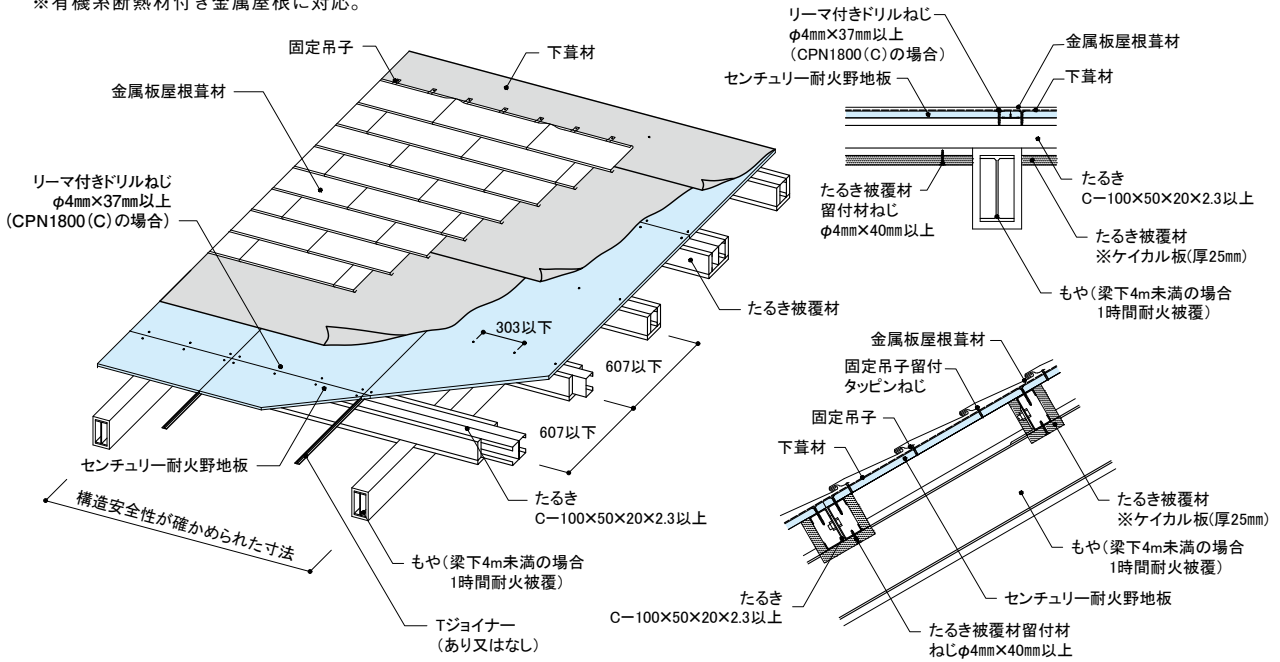
※葺材は銅板製金属屋根材限定です(銅板、ステンレス板、チタン含む)。
 ※有機系断熱材付き金属屋根に対応。



センチュリー耐火野地板・まげのじくん FP030RF-1997(1)仕様

■金属板屋根葺材施工法

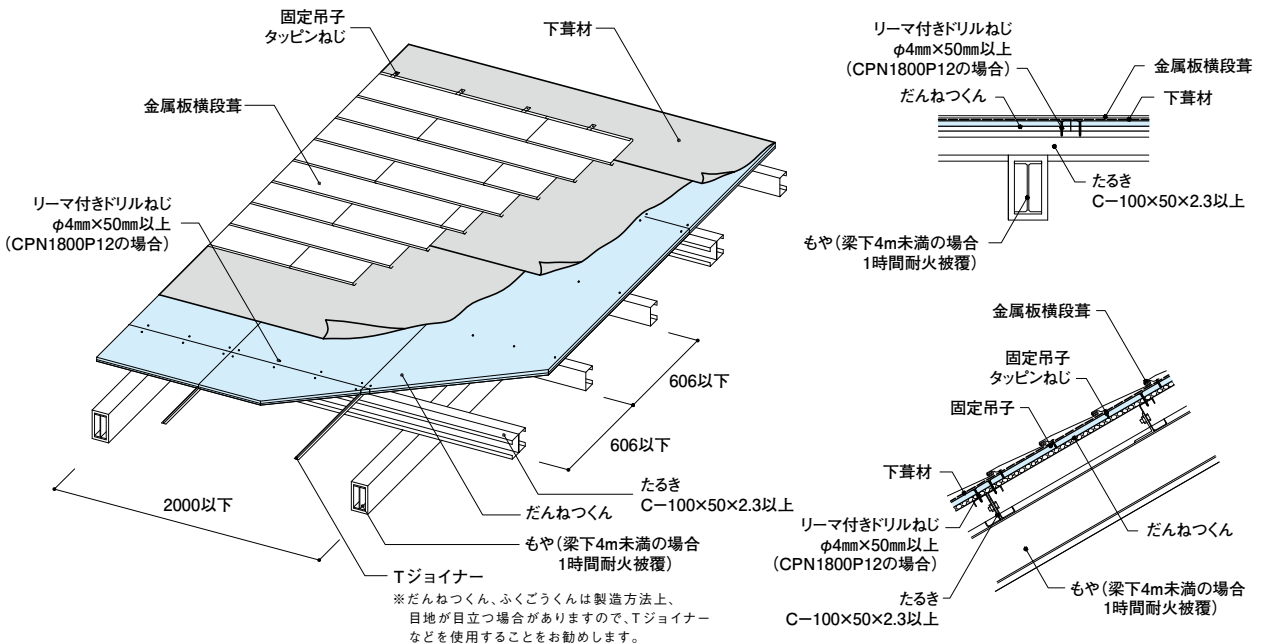
※もやの間隔は構造計算等によって構造安全性が確かめられた寸法です。
 ※たるぎに耐火被覆が必要です。
 ※葺材は鋼板製金属屋根限定です(アルミニウム合金板、銅板、ステンレス板、チタン板含む)。
 ※有機系断熱材付き金属屋根に対応。



だんねつくん FP030RF-0099-2仕様

■金属板横段葺施工法

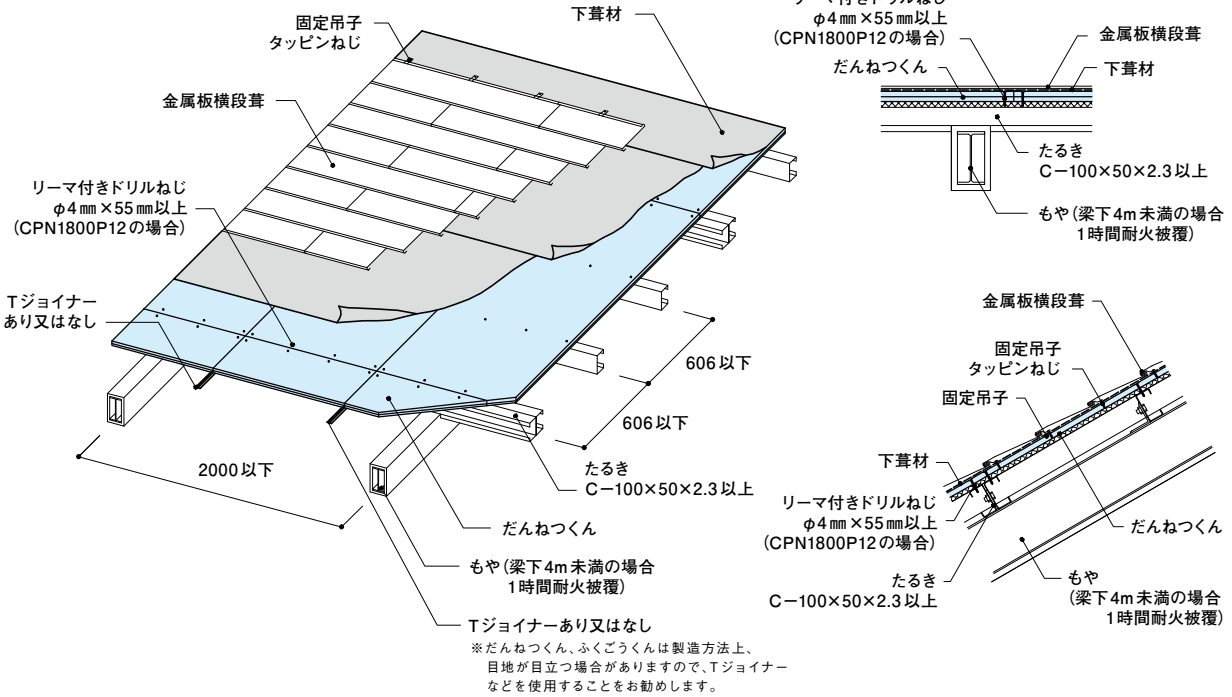
※粘土瓦(和瓦、S瓦)、プレスセメント瓦、化粧スレート瓦葺、他金属板工法も可能です。
 ※有機系断熱材付き金属屋根はフェノールフォーム厚み25mm以上が対応。(フェノールフォーム厚み12mmは対応不可。)



だんねつくん (フェノールフォーム 12mm):FP030RF-1779-1(2)仕様 (フェノールフォーム 25mm):FP030RF-1751-1(2)仕様

■金属板横葺き施工法

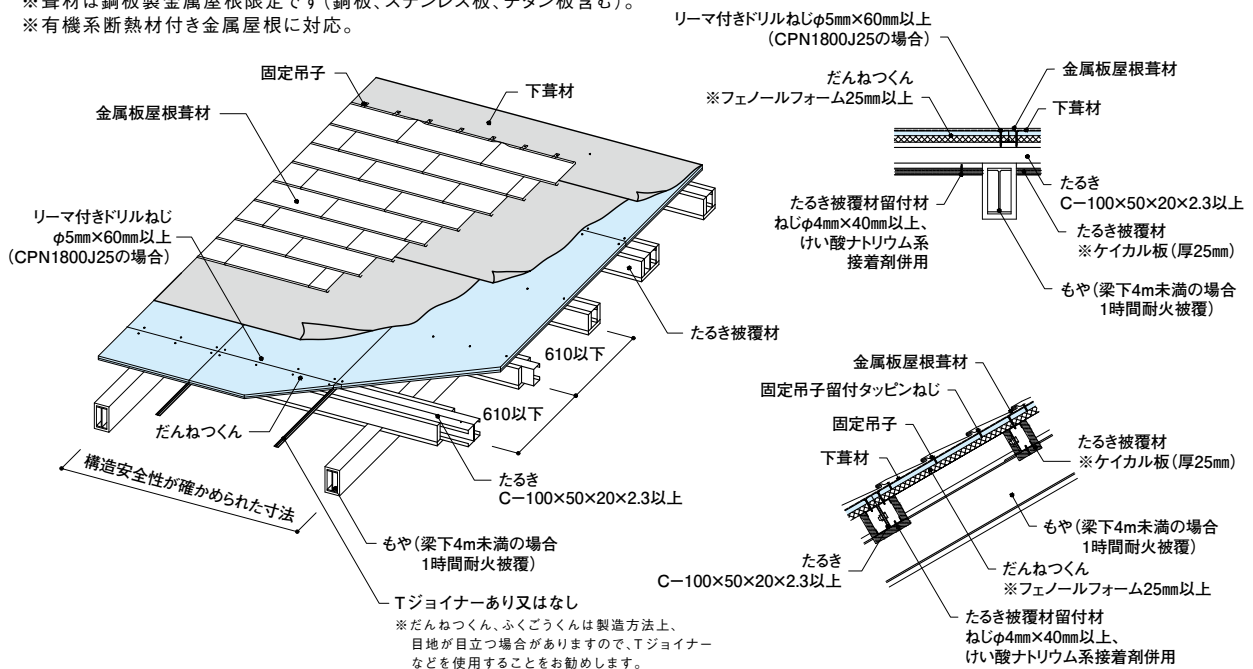
※葺材は鋼板製金属屋根材限定です(銅板、ステンレス板、チタン板含む)。
※有機系断熱材付き金属屋根に対応。



だんねつくん(フェノールフォーム 25mm以上) FP030RF-1984仕様

■金属板屋根葺き施工法

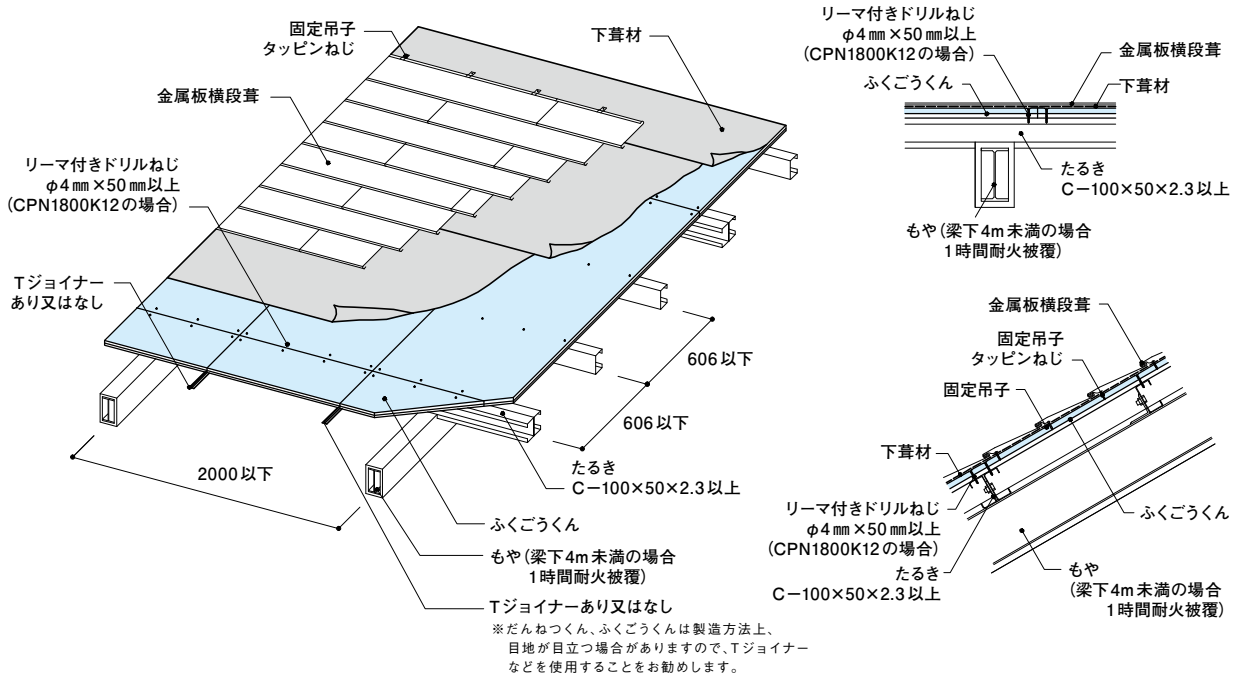
※もやの間隔は構造計算等によって構造安全性が確かめられた寸法です。
※たるきに耐火被覆が必要です。
※葺材は鋼板製金属屋根材限定です(銅板、ステンレス板、チタン板含む)。
※有機系断熱材付き金属屋根に対応。



ふくごうくん FP030RF-1058、1660～1662、1666～1670、1672仕様

■金属板横段葺施工法

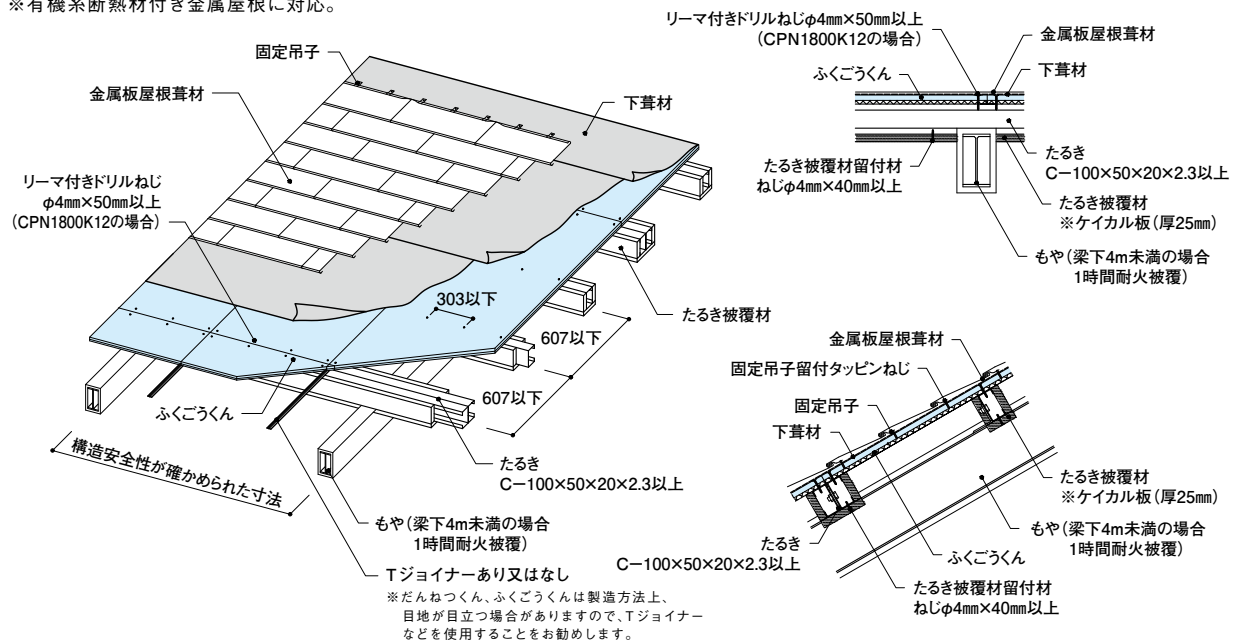
※葺材は銅板製金属屋根材限定です(銅板、ステンレス板、チタン板、アルミニウム板含む)。
 ※有機系断熱材付き金属屋根に対応。



ふくごうくん FP030RF-1997(2)仕様

■金属板屋根葺材施工法

※もやの間隔は構造計算等によって構造安全性が確かめられた寸法です。
 ※たるきに耐火被覆が必要です。
 ※葺材は銅板製金属屋根材限定です(アルミニウム合金板、銅板、ステンレス板、チタン板含む)。
 ※有機系断熱材付き金属屋根に対応。



CPN1800D (HB) 仕様および CPN1200D (C) 仕様

■ 施工上のポイント

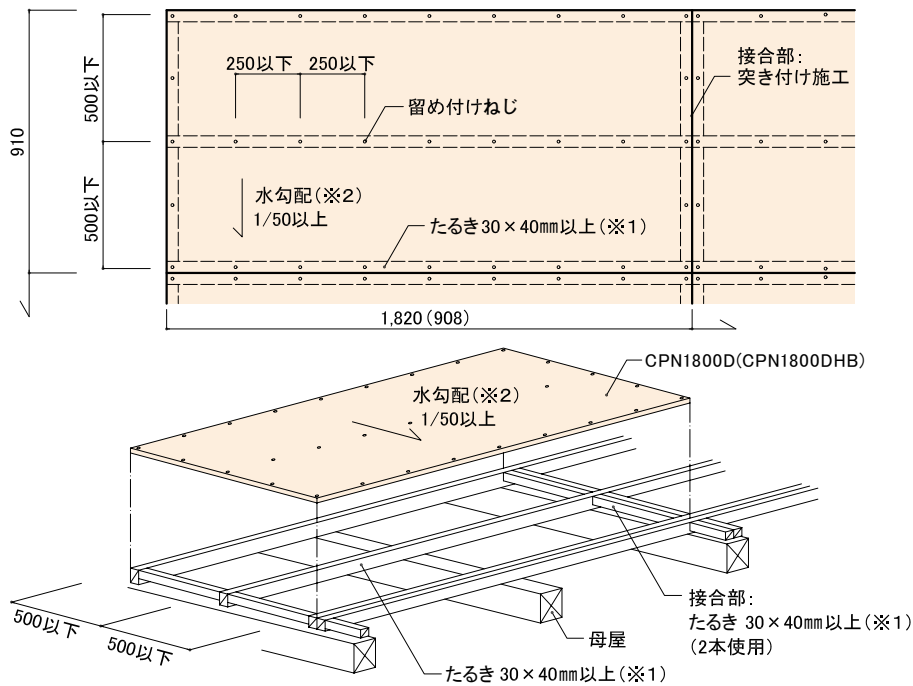
- たるきは30×40mm以上、@500mm以内で組んでください。
- 接合部は軽く突き付けとし、図のように各板の端部にたるきを施工してください。
- CPN1200D (C) 仕様の場合、構造用合板などの接合部はずらして施工してください。
- 留め付けねじは先孔をあけ、φ4mm×40mm以上を使用し、@250mm以内で図のように施工してください。
- 留め付けねじは、端部より30mm程度の位置に留め付けてください。
- 施工後は、すみやかにFRP防水工事を行ってください。
- 施工からFRP防水を施工するまでの間は必ず養生を行い、雨水などに濡らさないでください。
万一濡れた場合には、十分乾燥させてからFRP防水工事を行ってください。

※ベランダ面は点検や洗濯物干し程度の非歩行・軽歩行の使用を基本とします。常時通路や作業などでの歩行使用は避けてください。
軽歩行でも歩行頻度が多い場合はたるき@303mmで組むことをおすすめします。

■ ベランダくんの施工

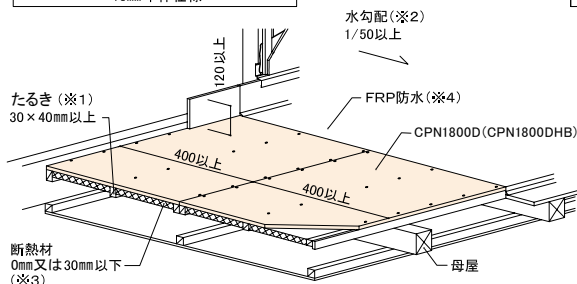
CPN1800D(CPN1800DHB)
18mm単体仕様

●下地組みおよびベランダくんの留め付けは、次の納めを参考に施工を行ってください。
(たるきの方向を流れに直交させた場合の施工例)

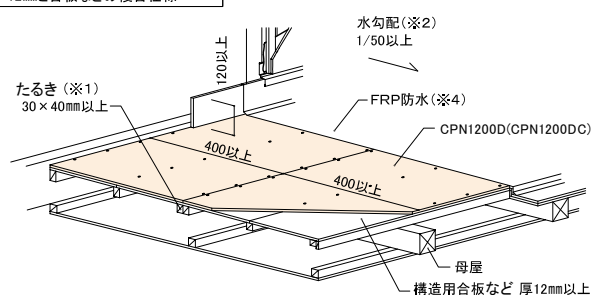


●ベランダくんを切断して施工する場合、最低400mm幅以上で使用してください。

CPN1800D(CPN1800DHB)
18mm単体仕様



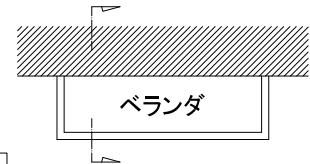
CPN1200D(CPN1200DC)
12mmと合板などの複合仕様



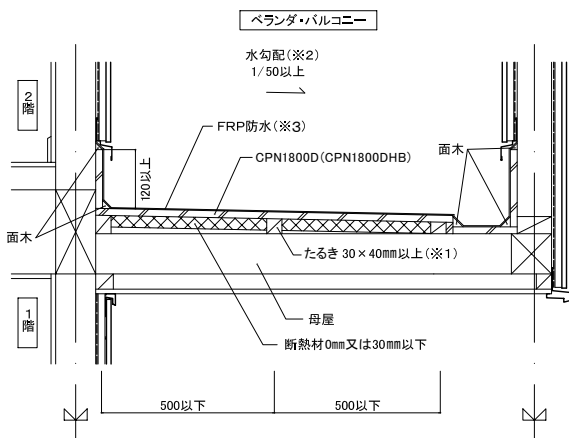
CPN1800D (HB) 仕様および CPN1200D (C) 仕様

■ 断面図

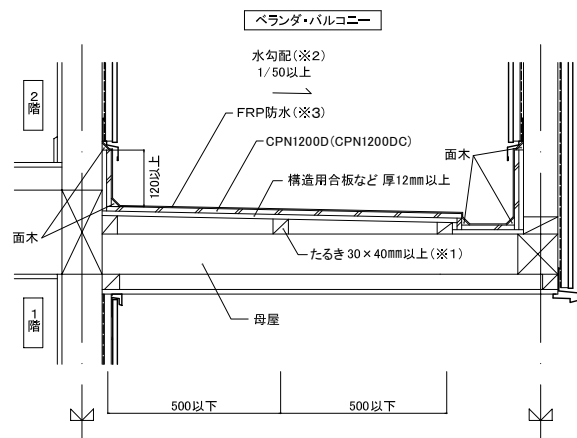
●FRP防水およびベランダくんの立ち上がりは、壁面との取り合い部分は、開口部の下端で120mm以上、それ以外の部分では250mm以上としてください。



CPN1800D (CPN1800DHB)
18mm 単体仕様



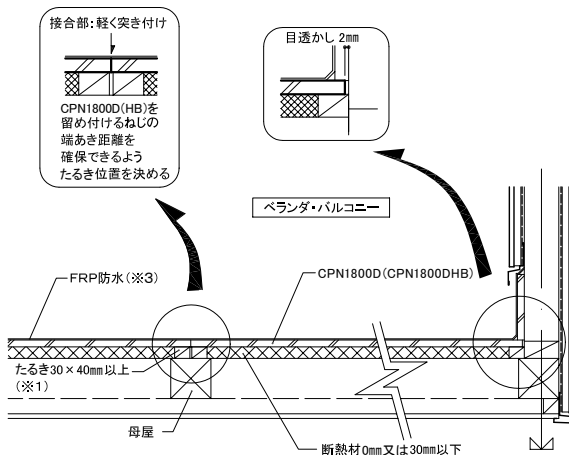
CPN1200D (CPN1200DC)
12mmと合板などの複合仕様



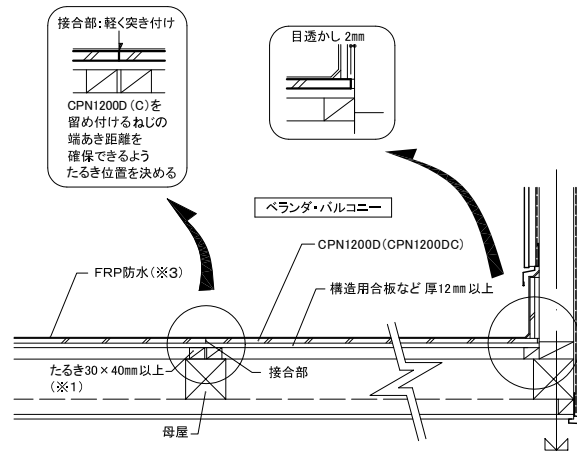
●端部には必ず2mm程度の目透かしを設けてください。



CPN1800D (CPN1800DHB)
18mm 単体仕様



CPN1200D (CPN1200DC)
12mmと合板などの複合仕様



※1 たるき・母屋の割り付け寸法などは、構造上の安全を確認して決定してください。
 ※2 FRP防水の水勾配に準じて決定してください。
 ※3 FRP防水工事は、各FRP防水メーカー様の仕様に準じて施工を行ってください。